

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

任命式会場前宣伝

2019年度、府立障害児学校には、41の職場に202人の新規採用者が赴任しました。4月1日の朝、大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)で行われた、「大阪府公立学校採用教職員任命式」に際して、大障教は恒例となった出迎えの歓迎宣伝をしました。年度始めの多忙な中、7分会20人が参加しました。

ようこそ府立障害児学校へ

好天のもと、新規採用者を温かく出迎え

今年度の府立支援学校新規採用者に加え、府立高校・地域の小学校・養護教諭・栄養教諭・事務職員の新規採用者のみなさんが、開場時間の9時前から集まり、新たなスタートに期待と不安で胸を膨らませていました。

自分の名前を見つけました！



「おめでとうございます！〇〇支援学校に着任される先生はいらっしゃいますか？一緒に学校に行きましょう」任命式の会場前には、これから同僚となる新しい仲間をさがす参加者の声が響き、スーツ姿で緊張気味の初任者のみなさんを励まそうとする、温かい雰囲気となりました。「支援学校の先生はおられますか？」の呼びかけに、「私、支援学校です！よろしくお願います」と笑顔で駆け寄り、資



東大阪支援学校分会

料を受け取ってくれた初任者もおられました。出迎え用のタペストリーなどに書かれた自分の名前を見つけて照れながらも安心された表情が見受けられ、心強かったのではないかと思います。また、顔見知りの参加者を見つけて、ほっとしたように言葉を交わす光景が、あちこちで見られました。出入り口の多い会場の事情もあり、同じ職場の方とうまく出会えなかった分会もありましたが、各分会が目立つように工夫を凝らした手作りの横断幕やプラカード等は、任命式のかたい雰囲気や和らげるのに十分な効果を発揮していました。



寝屋川支援学校分会 四條畷校分会



堺支援学校分会

新たに大障教に加入しました。2019年度も、初日から新規加入の報告が複数の分会から届き、執行部も元気をいただいています。新年度の初日に仕事の手を止めて会場まで足を運ぶのは、さぞ大変だったことと思います。参加してくださったみなさん、職場に残って参加者を送り出してくださったみなさんのご配慮に改めて感謝します。教育をめぐる状況が依然として厳しい中、新規採用の仲間たちが、子どもたち一人ひとりにしっかりと向き合い、持てる力を教育実践に集中できるように職場環境を作るためにも、引き続き教育条件の改善と、教職員の労働条件の改善をめざすと、とりくみが重要です。任命式の出会いも生かし、青年・ベテラン問わず、ひとりでも多くの教職員を大障教に迎えることができるように、今年度も創意あふれるとりくみをすすめていきます。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



元号とは、もともと古代中国で「皇帝は国民衆と、その時間までも支配する」という考え方に基づき作られました。今から2千200年以上前に即位した、前漢の武帝の代に始まったと言われています。

日本で元号が制度として確立したのは大宝(701年)からです。当時の日本は、朝鮮半島の国々に対抗して「いっぽしの国、王であること」を中国皇帝に認めてもらうために仏教や律令制を取り入れ、元号も取り入れた」と述べる古代史の研究者もいます(荒木敏夫・専修大名誉教授)。歴史を振り返ると、織田信長や豊臣秀吉らは、自らの天下を示すために改元させていますし、天皇の代替わりに改元しなかったこともありました。

1868年、明治政府は、天皇の絶対的な權威を国民に浸透させようと、「天皇一人につき一つの元号」という「一世一元」を制度化しました。その後、元号制度は、日本国憲法の制定で一旦は法的根拠がなくなりましたが、1979年に自民党政府が元号法の制定を強行して復活固定化され現在に至っています。

国や民族の歴史を計算する方法には、それぞれ独自のものがありますが、現在では西暦が実質的な世界標準となりました。中国でも1911年の清王朝終焉とともに元号は廃止され、今や日本は、世界唯一の元号使用国となりました。現在でも、官公庁などが西暦表記の文書を受理しないことがあります。これは明らかに強制的で、元号法制定当時の政府統一見解にも反します。最近の世論調査では、日常生活で使いたいのは「西暦」が50%に達し、「新元号」の40%を上回りました(朝日「3月19日」)。

「維新政治に終止符を!」の一点でひろげた府民・市民の共同都構想NO!カジノよりくらしの安全・希望、防災対策を!

大阪府知事選・大阪市長選の結果について (談話)

大阪府立障害児学校教職員組合

書記長 山内富士生

4月7日に投開票された大阪府知事・大阪市長のダブル選挙では、「明るい民主大阪府政をつくる会(「明るい会」)と「大阪市をよくする会(「よくする会」)」が自主的に支援した小西禎一知事候補が125万4200票(得票率35.6%)、柳本顕市長候補は47万6351票(得票率41.9%)を獲得しましたが当選には至りませんでした。

「維新政治に終止符を!」の一点で共同をひろげ、大阪府政・市政の転換に向けて奮闘されたみなさんに、心より敬意を表します。

政治的立場を超えた共同

今回の選挙は、「大阪都」構想の設計図を議論する「大都市制度(特別区設置)協議会」(法定協議会)で大阪維新の会がかかげる「大阪都」構想そのものが行き詰まる中、任期半年を残しながら、松井知事と吉村市長は知事と市長の職を辞し、松井氏が市長選、吉村氏が知事選に、自らの都合でポストを入れ替えて立候補しました。大障教は、小西禎一さん、柳本顕さんとの個々の政策の違いを超え、民主主義と住民自治を守る問題として、「明るい会」「よくする会」に結集して、全力でたたかいました。

「わし」や大型開発と一体にすすめる「IR||カジノ」誘致、大阪市をつぶして市民のくらしを破壊する「大阪都」構想の問題点をはじめ、意見の違う人たちを排除して対立を持ち込む「異質の悪政」であることなどを語りひろげました。

突然の辞職にともなうダブル選挙で、わずかな期間でしたが、私たちの奮闘により、大阪におけるくらしと民主主義の危機を打開するため、幅広い府民の共同をすすめたことは、これからのたたかいの土台となる貴重な成果です。

「大阪都」構想の本質をひろく知らせよう

これに対して、大阪維新の会は、まともな政策論争をさげ、「自民党、公明党、共産党の野合」批判、「大阪の成長を止めるな」の訴えに終始し、府知事・市長両候補とも「大阪都」構想の本身を語れず、これまでの「維新政治」の問題点を覆い隠そうとする主張を繰り返しました。

選挙結果に示された民意は、大阪経済が全国的にも大きく落ち込み、府民生活が悪化している現状を「何とかよくしたい」という前向きな願いです。「維新政治」がすすめてきたくらしの破壊、民主主義と住民自治

いのちとくらしを守る住民自治の実現を

府民は、教育や医療、福祉、防災対策の充実、景気回復など、安心してくらしを社会を願っています。

大障教は引き続き、「維新政治」の実態や危険性を幅広く知らせるとともに、府民のいのちとくらしを守る住民自治の実現と政治の根本的転換に向け、府民との共同をひろげるとりくみをさらに大きくするために奮闘する決意です。

全国障害児学級・学校

交流会に参加して(感想その6)

私は海の近くで育ったため、「津波が来たら」という話は年に何度かするような環境にいました。それでも、ニュースで見る津波の惨状は、どこか遠い世界のことのように感じていましたが、実際に現地へ行き、津波の恐ろしさ、対策の大切さの認識を改めることになりました。以前にニュースで「津波が憎い」と言う人はいても、海が憎いと言う人はいない」と言っていたのを聞きまして、海を見るのも怖いという人もいることを知り、言わないだけで、海が憎い人はいるのだらうと思いました。

大変勉強になりました。ありがとうございます。(匿名)

今回も、とてもよかったです。3日目のフォーラムでは、震災の時の避難所になった支援学校や、保護者の方の話が聞けて、とても勉強になりました。避難所ではどういことが行われていたのか、障害のある子どもたちにとって、避難生活がどんなに大変なのか、いつ地震が起こってもおかしくない中で、もし自分の学校が避難所になったら？子どもたちが避難しないとイケない状況になったらどんな支援ができるのか？様々なことを考えさせられました。

(東大阪支援学校分会 松石江梨香)